

## CIGS 経済×歴史セミナー(2)

### 歴史データを用いた経済セミナー・シリーズ第二回

- テーマ： 市場統合と経済活動の空間分布 — 空間経済学から見た植民地拡大  
日時： 2019年12月6日(金) 17:30~19:00 (受付開始:17:00~)  
※セミナー終了次第、当ビル9階にて懇親意見交換会を行います。  
会場： 東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸ビル内  
セミナー会場： 11階キャノングローバル戦略研究所内 会議室3  
懇親意見交換会： 9階カフェテリア illy

#### 概要：

CIGSでは、研究主幹 岡崎哲二をプロジェクトリーダーに据え、長期的歴史的データを用いた経済分析から現代のさまざまな経済問題への含意を引き出すことを目的に研究を行ってきた。この度、歴史データを用いた経済研究アウトリーチ活動の第二回セミナーを開催する。

現代の世界では、TPP、さまざまなFTA等の市場統合への動きがある一方、Brexit、アメリカのTPP離脱、米中間の貿易障壁引き上げ等の市場を分断する動きが交錯している。こうした市場の統合/分断は経済活動の空間的配置にどのような影響をあたえるだろうか。

今回は、市場統合の影響を明確に捉えるために、それが劇的に生じた植民地化のケースを取り上げる。具体的には、1910年に行われた日本による朝鮮の植民地化を対象として、日本と朝鮮の市場統合が日本内部における経済活動の空間配置にどのような影響を与えたかを実証的に分析する。

前回同様、本セミナーおよびその後の懇親会の場において、本研究の成果を参加者と共有するとともに、積極的に意見交換を行う予定。

#### Agenda：

##### ・発表と質疑(90分)

【報告】岡崎 哲二(CIGS/東京大学)・中島 賢太郎(一橋大学経営管理研究科経営管理専攻 イノベーション研究センター 准教授)

(タイトル) "市場統合と経済活動の空間分布—空間経済学から見た植民地拡大"

##### 論文要旨

1910年、日本は朝鮮を植民地として併合した。その後、日本は他国との関係等を考慮しつつ、段階的に日本と朝鮮の間の関税障壁を引き下げていった。すなわち、日本によ

る朝鮮の植民地としての併合は、経済的に見ると両地域間の市場統合という意味を持っている。本論文では、この市場統合が日本経済に与えた影響を、空間経済学の視点から分析する。朝鮮市場の統合によって日本の各地域の市場アクセスが改善され経済活動を活発化したか、こうした効果は朝鮮との距離に依存したか、が主要な関心である。分析の結果、市場統合は朝鮮に近い西日本地域の人口増加率を相対的に高め、それは特に日本から朝鮮への主要な輸（移）出品、繊維製品の産地で顕著であったことが明らかになった。

#### ・懇親会（終了後）

つづきは、会場を移しまして同ビル 9 階の懇親会会場にて、ご親睦を兼ねた議論をお願いします。

【会場】新丸ビル 9 階カフェテリア illy にて

【開始】19 : 00～

#### Speakers' Profile :

##### ■岡崎 哲二

東京大学大学院経済学研究科教授

三菱経済研究所兼務研究員

経済産業研究所ファカルティフェロー

Honorary President, International Economic History Association

日本経済史、比較経済史

##### ■中島 賢太郎

一橋大学経営管理研究科経営管理専攻イノベーション研究センター准教授

2003 年東京大学経済学部卒業。2008 年東京大学大学院経済学研究科博士課程修了（博士（経済学））。東北大学大学院経済学研究科地域経済金融論寄附講座（七十七）准教授、一橋大学経済研究所経済制度研究センター准教授、東北大学大学院経済学研究科准教授を経て 2017 年より現職にある。空間経済学の実証研究を中心に研究を行っている。最近は特に、イノベーションについて企業間の共同研究ネットワークや従業員間コミュニケーションネットワークといったネットワークデータを用いた研究を中心に行っている。

<http://www.cm.hit-u.ac.jp/faculty/000581.php>